

本書の使い方

1. 本書では、研究開発段階の研究成果から、実証段階を経て実用段階に達している研究成果まで掲載しております。研究の段階(技術の完成状況)は、研究成果一覧では矢印の長さで示し、各研究成果では左上に示している★の数によって、以下の例のように示しております。目安としてご活用ください。なお、初期の研究開発段階にある技術を生産現場に導入する場合は、そのリスクを予め想定しておくことをお願いします。

- 例) ★☆☆☆☆ : 初期の研究開発段階。実証試験等を行っていない段階。
 ★★☆☆☆ : 生産現場で実証試験等を行っている実証段階。
 ★★★★★ : 実証試験等を終え、研究担当者の判断としては実用段階。

研究成果一覧

研究成果名	対象作物・家畜	対象地域(実証地)	目的	25年度末現在の技術の完成状況			2014成果番号
				研究開発	実証	実用	
1 施肥削減に関する取組							
水稻側条施肥機で施用可能な採卵鶏ふん肥料の製造と利用	水稻、キャベツ	全国	有機性資源利用	→			140101

技術の完成状況を星の数で示しています

各研究成果の番号(頁)

【各研究成果】

140101	技術の完成状況 ★★★★★	水稻側条施肥機で施用可能な採卵鶏ふん肥料の製造と利用
目的と特徴 ・採卵鶏ふん堆肥に付加価値をつけるため、高精度機械散布を可能にし、かつ用途に応じた窒素		

2. 本書では、各成果に成果番号を付けております。上図のように成果の一覧では右列に成果番号があります。また、各研究成果では、左上に記載しております。

3. 本書は、技術開発の進捗に合わせて更新することを前提として作成しております。それぞれの研究成果の裏面下に記載する「平成 27 年 3 月 農林水産省農林水産技術会議事務局研究統括官室」の部分(下線部)は研究情報の公表時期を示します。なお、平成 27 年 3 月と記載されている成果は、情報を更新した、または新規に掲載した成果になります。

4. 本書で示す研究成果名は、委託プロジェクト研究における研究課題名とは異なります。

5. 本書では、技術の概要を示しております。詳しい試験データや試験条件、生産費等の試算の前提条件等の詳細については、各研究成果の表面下部に記載している研究機関にお問い合わせください。

6. 本書に掲載した研究成果は、以下の委託プロジェクト研究を対象としております（平成 26 年 3 月現在）。

- ・「地域内資源を循環利用する省資源型農業確立のための研究開発」（平成 21－25 年度、略称；省資源プロ）
- ・有機農業を特徴づける客観的指標の開発と安定生産技術の開発」（平成 25－29 年度、略称；有機農業プロ）
- ・「水田の潜在能力発揮等による農地周年有効活用技術の開発」（平成 22－26 年度、略称；水田底カプロ）
- ・「自給飼料を基盤とした国産畜産物の高付加価値化技術の開発」（平成 22－26 年度、略称；国産飼料プロ）

※水田底カプロと国産飼料プロは、平成 25 年度より「国産農産物の革新的低コスト実現プロジェクト」に統合しております。

以上